

## 小論文（そっくり類題）

試験時間：50分 / 字数制限：800字以内

解説・解答例：Web解説ページに掲載（TMPS医学館）

問 次の文章を読み、下線部(1)について、あなたの考えを 800 字以内で述べなさい。

近代以降の医学は、人間の身体を精緻な機械になぞらえ、病気の原因を細胞や分子、あるいは臓器の機能異常へと還元することで飛躍的な進歩を遂げてきた。血液検査の数値や画像診断の所見は、誰が測定しても同じ結果を示す客観的な指標であり、医療者が共通の基準で治療方針を立てるための不可欠な土台となっている。医療人類学\*1では、このように自然科学の視点から客観的・普遍的に捉えられた身体の異常を「疾患（ディジーズ）」と呼ぶ。

しかし、病院を訪れる患者が生きているのは、検査データの数値の中ではない。同じ検査値や同じ診断名であっても、その不調が仕事や家庭生活にどのような影を落とし、将来に対してどのような不安や孤独を呼び起こすかは、一人ひとりの人生の文脈によってまったく異なる。患者自身が自らの身体の変化を主観的にどう感じ取り、自分の人生の中でどう意味づけているかという体験の総体は、「疾患」とは区別して「病い（イルネス）」と呼ばれる。

この「疾患」と「病い」のあいだには、しばしば埋めがたい隔たりが生じる。たとえば、手術や投薬によって検査上の数値が正常範囲に戻り、医学的には「治癒・改善した」と判断されても、患者本人は副作用による倦怠感や再発への恐怖、あるいは以前のように働けない喪失感のなかで苦しみ続けていることがある。逆に、完治が望めない進行性の病気や老いの過程にあっても、周囲との温かい関係の中で自分の役割を見出し、穏やかな納得感をもって日々を生きている人も少なくない。

科学的な根拠に基づく医療（EBM\*2）がどれほど高度化しても、それだけで人間の苦悩のすべてを解決できるわけではない。なぜなら、どれほど正確な統計データや診療ガイドラインも、「いま、ここで苦しんでいるこの私」にとってその病がどのような意味をもつのかという固有の問いには答えてくれないからである。そこに、患者が語る固有の物語に耳を傾ける「物語に基づく医療（NBM\*3）」が求められる理由がある。

医療の場とは本来、客観的な知識をもつ専門家と、固有の人生を生きる生活者とが出会い、言葉を交わす場所である。  
(1)医師が、単に身体の異常である「疾患」を数値として処理する技術者にとどまらず、患者が抱える「病い」の物語に耳を傾け、対話を通じて治療や療養の意味をともに紡ぎ出す伴走者として関わる時、医療は初めて患者の生きる力を真に支えるものとなるだろう。

\*1 医療人類学：健康や病気、医療をめぐる人間の経験や文化的・社会的背景を研究する学問分野。アーサー・クラインマンらが「疾患（disease）」と「病い（illness）」の概念的区別を提唱した。

\*2 EBM（Evidence-Based Medicine）：最新の臨床研究や統計データなど、科学的な根拠に基づいて最善の治療法を選択する医療のあり方。

\*3 NBM（Narrative-Based Medicine）：患者が語る病の体験や生活史、価値観（「物語」）を尊重し、対話を通じて診療を行う医療のあり方。

✎ 書き始める前の「10分構成メモ」（720～780字を目標に4段落で設計しよう）

|                                    |  |
|------------------------------------|--|
| 第1段落（約180字）<br>課題文の要点と問題提起         |  |
| 第2段落（約200字）<br>現代医療における数値偏重の課題     |  |
| 第3段落（約220字）<br>対話・物語共有の具体策と意義      |  |
| 第4段落（約160字）<br>EBMとNBMの統合・医師としての決意 |  |

小論文 解答用紙 (20字 × 40行 = 800字)

目標字数：720～780字（制限字数の9割以上）／段落の最初は1マスあけること

[illegible]

200字

300

400字

500

600字

700

720字(9割)

800字